

# アフリカ産コーヒーとの新たな出会い

コーヒーはアフリカ地域の多くの国々で生産され、農家の生活を支えている貴重な作物です。ジェトロでは、アフリカ産品の対日輸出を拡大するため各種事業を行っていますが、取り組みのひとつとして生産者の収入増につながる高品質なコーヒーの日本市場への進出に協力しています。

アフリカ産コーヒーといえば、タンザニア産キリマンジャロやエチオピア産モカの芳醇な香りやキレのある酸味が、すぐに思い浮かぶ方も多いのではないのでしょうか。生産国ごとにユニークな個性があることは、アフリカ産コーヒー豆に共通する特徴の一つです。

この冊子では、ジェトロがコーヒーの支援事業で協力しているアフリカファインコーヒー協会 (AFCA) に加盟している 11 カ国 (ブルンジ、コンゴ民主共和国、エチオピア、ケニア、マラウイ、ルワンダ、南アフリカ、タンザニア、ウガンダ、ザンビア、ジンバブエ) のコーヒーを紹介します。

この中には、皆様に馴染みのある国もあれば、国際市場で注目を集め始めたばかりの産地もあります。ジェトロでは、試飲会の開催や企業団の往訪などを通じて新興産地の紹介にも力を入れています。日本の商社、焙煎企業、小売業からは「今後取り扱ってみたい」という声が多数寄せられています。

この小冊子は、生産国情報に対する要望が大きかったことを受け、ジェトロと AFCA が共同で作成したものです。皆様と新たなアフリカ産コーヒー生産者をつなぐための一助となれば幸いです。

**JETRO** 日本貿易振興機構 (ジェトロ)  
途上国貿易開発部 開発支援班



JETRO/AFCA ブース (SCAJ2012)

セミナーでのアフリカ産コーヒーの紹介

日本企業との商談

## CONTENTS

- ・アフリカファインコーヒー協会 (AFCA) プロフィール …… p.4
- ・AFCA 会長からのメッセージ …… p.5
- ・AFCA 加盟国 …… p.5
- ・データで見るアフリカ産コーヒー …… p.6-8

## 生産国紹介



- ・ブルンジ Burundi …… p.9
- ・コンゴ民主共和国 DR Congo …… p.10
- ・エチオピア Ethiopia …… p.11
- ・ケニア Kenya …… p.12
- ・マラウイ Malawi …… p.13
- ・ルワンダ Rwanda …… p.14
- ・南アフリカ South Africa …… p.15
- ・タンザニア Tanzania …… p.16
- ・ウガンダ Uganda …… p.17
- ・ザンビア Zambia …… p.18
- ・ジンバブエ Zimbabwe …… p.19

## アフリカファインコーヒー協会(AFCA)プロフィール

2000年7月に設立された非営利、非政府の会員組織で、加盟国はアフリカ11カ国。事務局はウガンダのカンパラにある。会員は生産者、輸出業者、海外の輸入業者、焙煎業者、流通業者、政府機関など民間、公的機関を含むあらゆるコーヒー関係者。

### 主な事業

#### 1. 市場拡大

##### (1) 国際的なイベントの主催、参加

「アフリカ産ファインコーヒー会議・展示会」の主催及び世界中で開催されるコーヒー関連イベントへの会員参加のとりまとめ。

##### (2) ミッションの派遣

市場開拓を目的とした海外へのミッション団の派遣。

##### (3) ビジネス関係及びネットワークの構築

海外のコーヒー関連イベントでの消費国関係者とのネットワーク構築のためのイベント開催。AFCA加盟各国での会員交流促進のためのイベント開催。

##### (4) オークションの開催（準備中）

地域内におけるコーヒーオークションの開催。



#### 2. 品質向上

##### (1) 各国におけるコーヒー・カップング競技会

コーヒーの品質についての啓もうを目的とした、加盟各国におけるカップング競技会の開催。

##### (2) アフリカ・テスト・オブ・ハーベスト競技会

年に1回開催される「アフリカ産ファインコーヒー会議・展示会」における加盟国全体の競技会。各国で受賞したコーヒーが集められ、加盟国全体で最高のコーヒーが選ばれる。

##### (3) 能力強化のためのトレーニング

マーケティング、品質向上、カップング、抽出等の能力強化を目的としたワークショップの開催。

##### (4) バリスタ競技会

アフリカ域内におけるコーヒー消費拡大を目的としたバリスタ競技会の開催。

## AFCA 会長からのメッセージ FROM THE CHAIRMAN

### コーヒーを愛する友人の皆様



世界を代表する高品質なコーヒーの産地、アフリカから「こんにちは！」

AFCAは、高品質なコーヒーを日本に紹介すること、日本市場でのビジネス機会を発見すること、そして、付加価値をどのように創出するか学び、AFCAのネットワークを通して広く普及することを目指しています。

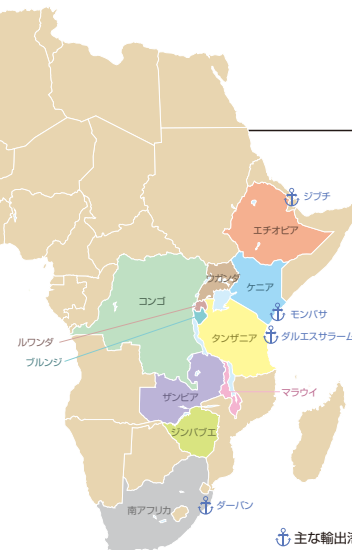
これらの目的は期待通りの成果を挙げており、アフリカで大きな影響を与えています。昨年の参加者は、マラウイ産のコーヒーが、日本のコーヒーショップ店頭でシングル・オリジンとして販売されるという一つの成功事例を目にしました。

AFCAは、次回の年次総会のテーマに掲げている「アフリカにおけるコーヒー産業の持続的成長」と連動する形で、日本スペシャルティコーヒー協会（SCAJ）と事業協力に関する覚書を新たに締結し、世界のコーヒー地図にアフリカの存在感を取り戻したいと考えています。

最後になりますが、皆様を2014年2月13日から15日に開催予定の「アフリカンファインコーヒー会議兼展示会」にご招待します。第11回は、ブルンジが初開催国となる歴史的なイベントとなります。テーマは「アフリカコーヒー産業の持続的成長に向け、ザ・グレート・レイクス（アフリカ大湖沼）湖畔で会いましょう」です。

AFRICAN FINE COFFEES ASSOCIATION (AFCA) 会長  
HARRISON KALUA ハリソン カルア

## AFCA 加盟国



#### 事務局連絡先

African Fine Coffees Association  
Plot 4, Bazarabusa Drive, Off Luthuli Avenue,  
Bugolobi, Kampala, Uganda  
Tel : +256 (0)414 269140/1/7  
E-mail : secretariat@aficanfinecoffees.org  
Website : www.eafca.org

主要輸港

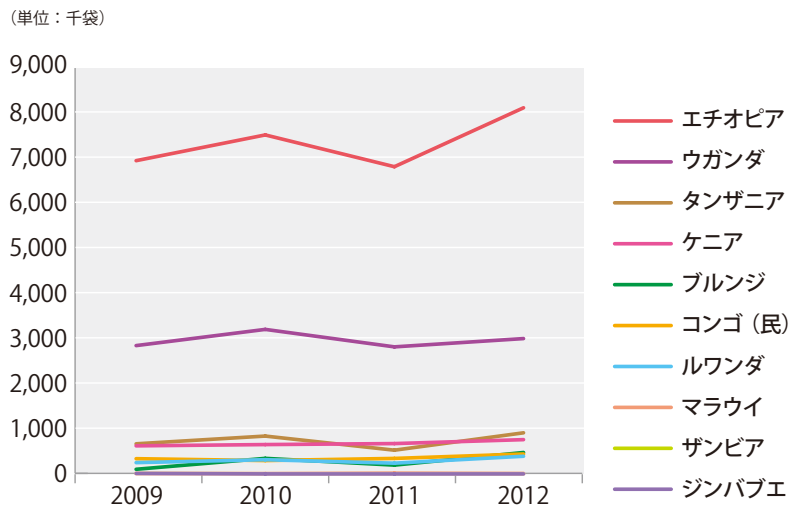
## データで見るアフリカ産コーヒー (1)

～知られざる生産国～

アフリカ主要国の生産量 (収穫年) 出所: ICO

国名	2009	2010	2011	2012
エチオピア	6,931	7,500	6,798	8,100
ウガンダ	2,845	3,203	2,817	3,000
タンザニア	675	846	534	918
ケニア	630	658	680	767
ブルンジ	112	353	204	483
コンゴ (民)	346	305	352	450
ルワンダ	259	323	247	400
マラウイ	17	17	27	20
ザンビア	28	13	10	10
ジンバブエ	21	10	9	10
AFCA 加盟 10ヶ国合計	11,864	13,228	11,678	14,158

※生産量はアラビカ種とロブスタ種の合計。南アフリカは ICO 非加盟のためデータなし。



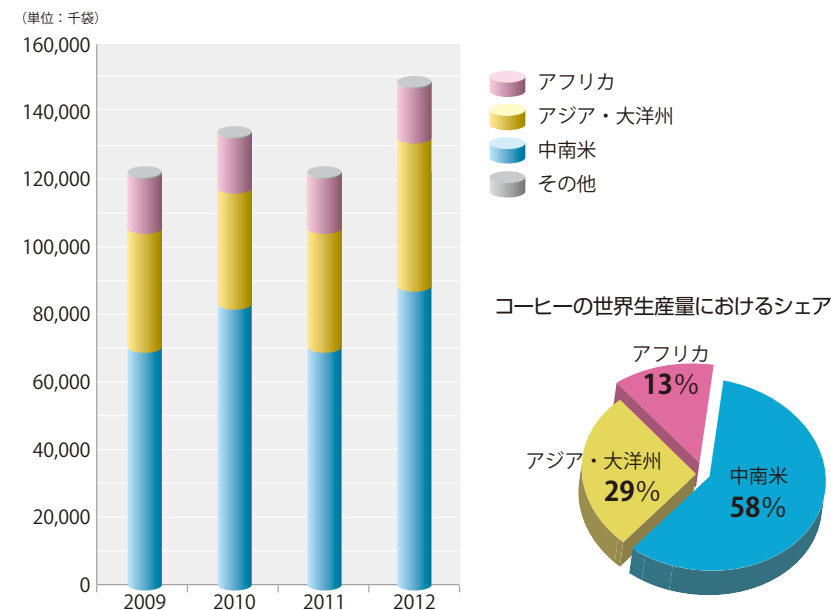
## データで見るアフリカ産コーヒー (2)

～生産量は安定～

世界生産量の推移 出所: ICO

地域	2009	2010	2011	2012	シェア
中南米	69,740	80,955	79,204	84,261	58%
アジア・大洋州	37,076	36,158	40,910	41,683	29%
アフリカ	15,848	16,225	15,655	18,502	13%
その他	135	161	166	200	0%
世界計	122,798	133,498	135,934	144,646	100%

※生産量はアラビカ種とロブスタ種の合計。南アフリカは ICO 非加盟のためデータなし。



アフリカでは、全世界で生産されるコーヒーの  
約 13% にあたる 1,850 万袋を生産。

## データで見るアフリカ産コーヒー (3)

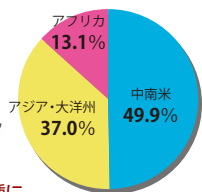
### ～欧州ではメジャーな人気商品～

EU (27カ国) におけるコーヒー生豆輸入元 (2012年)  
出所: Eurostat

地域名	輸入量 (単位: トン)
中南米	1,384,654
アジア・大洋州	1,024,949
<b>アフリカ</b>	<b>361,851</b>
その他	1,048
合計	2,772,501

アフリカのシェアは 13.1%

上位5カ国  
1位: ウガンダ  
2位: エチオピア  
3位: ケニア  
4位: コートジボワール  
5位: カメルーン



アラビカ種、ロブスタ種に  
関わらずアフリカから大量に購入。

日本におけるコーヒー生豆の輸入元

順位	国名	2009	2010	2011	2012	シェア
1	ブラジル	110,211	123,059	131,414	121,384	32.0%
2	ベトナム	57,865	54,737	52,892	75,725	20.0%
3	インドネシア	52,339	59,060	62,350	48,197	12.7%
4	コロンビア	76,630	78,948	63,499	45,045	11.9%
5	グアテマラ	33,311	34,175	37,743	29,008	7.7%
6	エチオピア	1,108	10,239	8,022	11,268	3.0%
7	タンザニア	13,960	10,486	11,067	10,657	2.8%
8	エルサルバドル	6,906	5,069	10,679	6,827	1.8%
9	ホンジュラス	6,366	6,333	8,136	6,430	1.7%
10	パプアニューギニア	6,468	7,643	5,091	2,546	0.7%
18	ウガンダ	528	238	459	514	0.1%
20	ケニア	1,735	879	704	449	0.1%
21	ルワンダ	57	109	149	329	0.1%
30	ブルンジ	18	18	41	47	0.0%
36	マラウイ	9	18	28	14	0.0%
37	ジンバブエ	2	0	9	6	0.0%
	ザンビア	54	58	6	0	0.0%
	コンゴ(民)	3	0	0	0	0.0%
	世界計	390,025	409,386	415,635	378,798	100%

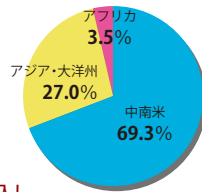
残留農薬問題によって激減したエチオピア産の輸入量が増加している。  
ルワンダやブルンジといった新興産地に一定の需要が形成された。

米国におけるコーヒー生豆輸入元 (2012年)  
出所: 米国商務省

地域名	輸入量 (単位: トン)
中南米	882,487
アジア・大洋州	344,102
<b>アフリカ</b>	<b>44,520</b>
その他	2,907
合計	1,274,016

アフリカのシェアは 3.5%

上位5カ国  
1位: エチオピア  
2位: ケニア  
3位: カメルーン  
4位: ウガンダ  
5位: タンザニア



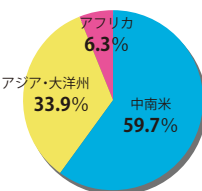
70% を中南米から輸入し、  
アフリカからの調達量は少ない。

日本におけるコーヒー生豆の輸入元

地域名	輸入量 (単位: トン)
中南米	218,684
アジア・大洋州	124,132
<b>アフリカ</b>	<b>23,251</b>
その他	273
合計	366,341

アフリカのシェアは 6.3%

上位5カ国  
1位: エチオピア  
2位: タンザニア  
3位: ケニア  
4位: ウガンダ  
5位: ルワンダ



エチオピア、タンザニアからの輸入が突出。

日本では今後伸びる余地が大きい

## ブルンジ *Burundi*



ブルンジ

栽培品種	アラビカ
特徴	明るい酸味と甘みの調和の取れたフルボディ 東部アフリカに見られる独特の野性味
生産量 (2012年)	483 千袋
生産地域	全土
販売方法	オークション、直売
加工	ウォッシュ
収穫期	2 - 6月
船積港	ダルエスサラーム (タンザニア)
主な輸先	ベルギー、ドイツ、オランダ、日本、米国、オーストラリア

ルワンダ、コンゴ民主共和国、タンザニアに  
囲まれて東アフリカと中央アフリカの間に位  
置する内陸国。ナイルーコンゴ水系に属して  
いる。国の西部の大部分がタンガニーカ湖に  
接しており景色が美しい。

国土の大半が丘陵や山岳地帯で、タンガニー  
カ湖は 772m、へノ山の頂上は 2670m と  
高度差が大きい。

ブルンジは 19 世紀末にドイツによって植民  
地化され、第一次世界大戦後、ベルギーの手  
に渡り、ベルギーから独立したのは 1962  
年。その国土の小ささに比べて人口が 870  
万人と大きく、人口密度が非常に高い。  
ブルンジ経済は農業に依存しており、国民の  
86% は農業に従事している。コーヒーは最

も重要な商品作物で輸出総額の 72% を占め  
ている。その他作物としては茶、コットン、  
タバコ、パーム油などがある。

ブルンジ音楽は有名で、特に打楽器の分野で  
は世界的にも有名で、ブルンジを代表する  
コーヒーのブランド名「ンゴマ (Ngoma)」  
は太鼓の意味である。



## コンゴ民主主義共和国 DR Congo



コンゴ民主主義共和国



栽培品種	アラビカ、ロブスタ
特徴	フルーティでバナナ風味の野性味のある力強いカップ
生産量 (2012年)	450 千袋
生産地域	キブ (東部)
販売方法	直売
加工	ウォッシュ、ナチュラル
収穫期	1 - 11月
船積港	マタディ、モンバサ

コンゴ民主共和国には 200 を超える異なった民族が暮らしており、アフリカで最も民族性の多様な国と考えられている。国境は 9 カ国 (アンゴラ、ブルンジ、中央アフリカ、コンゴ共和国、ルワンダ、スーダン、タンザニア、ウガンダ、ザンビア) に接しており、その国土は東アフリカから西アフリカの大西洋岸まで広がっている。

フランス語が公用語であるが、一般的にはリンガラ語やキングワナ語 (スワヒリ語に似ている)、キコンゴ語、ツルバ語も使われている。

赤道が国土を通過し、その大半を熱帯雨林に覆われ、その中を伝説的な大河として有名なコンゴ河が蛇行して流れている。主な作物は砂糖、パーム油、ゴム、茶、キャッサバ、バナナ、メイズなど。

ウガンダ国境にあるルウェンゾリ山脈のスタンリー山など標高もあり、加えて土壌が豊かなことから、20 世紀初期にベルギーによってコーヒープランテーションが数多く作られたが内戦によってその多くは荒廃してしまったため、現在、復興への取り組みが進められている。

アラビカ種コーヒーの生産は主に東部キブ (キブ湖の対岸はルワンダ) で行われており、輸出は東部ルート (ルワンダ、ウガンダ) が使われることが多い。



## エチオピア Ethiopia



エチオピア



栽培品種	アラビカ
特徴	適度な酸味とワインのような甘い香りの調和のとれたミディアムボディ
生産量 (2012年)	8,100 千袋
生産地域	ハラー、リム、ジマ、イルガチャフェ、シダモ
販売方法	商品取引所 (ECX)、直売
加工	ウォッシュ、ナチュラル
収穫期	10 - 12月
船積港	ジブチ
主な輸出先	ドイツ、日本、サウジアラビア

エチオピアはアフリカ北東部の赤道と南回帰線の間に位置しており、ケニア、スーダン、ソマリア、エリトリア、ジブチに国境を接している。

アフリカの中でも、帝国時代より植民地支配から自由を保ったことで知られ、アフリカでもっとも古い独立国家である。

青ナイルは北部高地のタナ湖から流れだし、熱帯雨林や山岳地帯を抜け、400 マイル以上も旅をしてスーダンで白ナイルと合流する。

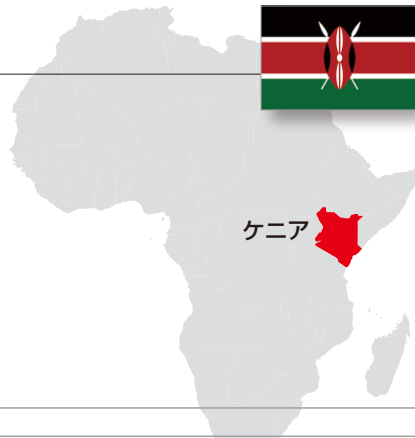
コーヒーの起源はエチオピアのカファ地区と考えられており、エチオピアから 14 世紀にイエメンに伝わり、そこでオランダ人に発見され、17 世紀にインドネシアに苗が持ち込まれたといわれている。コーヒーは今日もエチオピア国民に愛飲されている。

エチオピアは世界一多くのコーヒー遺伝資源を有し、6000 種以上のコーヒーが発見されている。

主要産業はコーヒーを含む農業だが、その他に、金、皮革製品、家畜、ゴマ等も生産している。近年ではその特徴的な文化、歴史、自然を生かした観光業にも力を入れている。



## ケニア Kenya



栽培品種	アラビカ
特徴	複雑で独特なフルーティ（及び／もしくは）スパイシーな風味 一部はクリーンで明るく、その他はワインのような風味
生産量（2012年）	767千袋
生産地域	メル、キアンプ、キリニャガ、ルイル
販売方法	オークション、直売
加工	ウォッシュ
収穫期	4 - 6月、10 - 12月（メイン）
船積港	モンバサ
主な輸出先	ドイツ、米国、スウェーデン、フィンランド、ベルギー

ケニアは赤道直下に位置し、スーダン、エチオピア、ソマリア、タンザニア、エチオピア、ウガンダに国境を接している。自然とサファリで有名であり、毎年何十万人もの観光客がケニアを訪れている。

リフトバレーといわれる大地の裂け目は国土を縦に貫き、トゥルカナ湖周辺で発見された人類の祖先の化石は250万年ほど前のものと推測され、人類の起源に関する説が覆された。また、70以上の民族で構成されており、アフリカのすべての主要な言語の起源はケニアだといわれている。

歴史的には古くからアラブ人が東部海岸を支配していたが、19世紀後半に英国とドイツが入ってきて、20世紀初頭には農業が急速に発展し、とコーヒーがエチオピアより持ち込

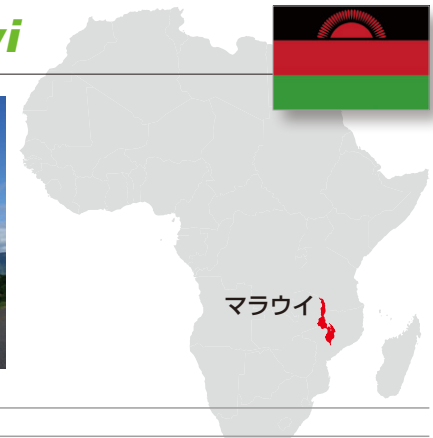
まれ、コーヒープランテーションが始まった。

1960年代にケニアは独立したが、現在も農業はケニア経済の中心で、GDPの約25%、労働人口の約60%を占める。

輸出の中心はコーヒーと茶だが、その他の作物としては、メイズ、ソルガム、キャッサバ、豆類、フルーツなどがある。最大の外貨収入源は観光。



## マラウイ Malawi



栽培品種	アラビカ
特徴	かすかな花の香りを伴ったスムーズなフルボディ
生産量（2012年）	20千袋
生産地域	全土
販売方法	入札
加工	ウォッシュ
収穫期	4 - 9月
船積港	ダーバン、モンバサ、ダルエスサラーム
主な輸出先	南アフリカ、スイス、ドイツ、英国

1891年に設置された英国ニャサランド保護領より1964年に独立。モザンビーク、タンザニア、ザンビアに囲まれた内陸国。580kmの長さを誇るマラウイ湖が国土の最大の特徴である。シア川（ザンベジ河につながる）がモザンビークに流れ込む国境地帯の標高が37mと最も低く、ムランジェ山の頂上3000m超が最高地点である。

北部はタンザニア国境に近い山脈地帯で小自作農家によって、南部は紅茶の産地であるブランタイア周辺で大農園によって、主にコーヒーが生産されている。北部ムズズは急速にコーヒーの生産量を拡大しており、希少なゲイシャ種も栽培されている。

伝統的な農業国であり、労働人口の約80%が農業及び農業関連事業に従事している。

ウガンダで今日栽培されているアラビカコーヒーはマラウイから持ち込まれたもので、いくつかの地域では今でもニャサランドコーヒーと呼ばれている。



## ルワンダ *Rwanda*



ルワンダ

栽培品種	アラビカ
特徴	明るい酸味を持ったスムーズなフルボディ 特にマラバは甘く際立った後味で知られる
生産量 (2012年)	400千袋
生産地域	全土
販売方法	直売
加工	ウォッシュ
収穫期	3 - 6月
船積港	モンバサ、ダルエスサラーム
主な輸出先	ドイツ、ベルギー、米国、フランス

「千の丘の国」、「ゴリラの国」として知られるルワンダは、アフリカの中央部に位置し、最も近い港まで1500 km離れている内陸国で人口は1,000万人ほど。

国土面積は小さいものの、山脈、火山地帯、河川、湖、湿地帯、サバンナ、森林地帯と多様である。1日ほど車で走れば、サバンナから山岳、森林地帯へと景色が変わる。森林の奥深くはマウンテンゴリラの生息地として保護され、東部のアカゲラ国立公園はキリンやバッファロー、象を見ることができる。

人口密度がきわめて高く、その国土の多くは耕作され、ネパールやフィリピンのように斜面にも作物が植えられている。コーヒーは全国で栽培され、欧米の援助によりウォッシングステーションが各地で建設され、スペシャ

リティコーヒーの産地として世界的に知られるようになってきている。

ルワンダの外貨収入源は、観光、コーヒー、紅茶、鉱物である。コーヒー、紅茶、鉱物の輸出は総輸出の57%を占める。その他作物はプランタン（バナナ的一种）、スイートポテト、豆類、キャッサバ、ソルガム、メイズなど。



## 南アフリカ *South Africa*



南アフリカ

栽培品種	アラビカ
生産量 (2009年)	100トン
生産地域	クワズールナタール州、東ケープ州
販売方法	直売
加工	ウォッシュ
収穫期	7 - 10月
主な輸出先	ダーバン

南アフリカは日本の約3倍の国土に3分の1の人口が暮らしている。プラチナやダイヤモンドなどの鉱物資源に恵まれ、2010年にはサッカーワールドカップを開催するなど、急速な発展を遂げている。

農業についても、人件費は高く競争力が低いが、大規模な灌漑や肥料の投入など、先進的な農業技術の導入により、農業生産性は高い。

南アフリカでは、1900年代初頭にアラビカコーヒーが初めて栽培され、1970年代から1994年まで続く政府の食糧自給プログラムにより、一時は年間3,000トン近いコーヒーを生産した。

しかし、その後、政府の方針の転換や人件費およびその他生産コストの上昇により、他の作物への切り替えが進み、現在のコーヒーの生産量は100トン程度にとどまっている。

現在では、ごくわずかに残ったコーヒー生産者が、比較的温暖多湿なクワズールナタール州、東ケープ州周辺の農園でコーヒーを栽培し、自社で焙煎、包装を行い、付加価値をつけて、空港の土産物屋などで販売している。

南アフリカは、ザンビア、ジンバブエ、マラウィなどの近隣国との貿易量が多く、インフラも整備され輸送もスムーズであることから、南部アフリカのゲートウェイとなっており、南アフリカの輸出業者を通じてこれらの産地のコーヒーを輸入することができる。



# タンザニア Tanzania



タンザニア

栽培品種	アラビカ、ロブスタ
特徴	明るい酸味、調和のとれたボディ
生産量 (2012年)	918千袋
生産地域	キリマンジャロ(アラビカ)、ンベヤ(アラビカ)、ブコバ(ロブスタ)
販売方法	オークション、直売
加工	ウォッシュ (アラビカ)、ナチュラル (ロブスタ)
収穫期	7 - 12月 (アラビカ)、4 - 11月 (ロブスタ)
船積港	ダルエスサラーム、タンガ
主な輸出先	ドイツ、日本 (アラビカ)、イタリア、ベルギー、フランス (ロブスタ)

タンザニアは7カ国(ケニア、ウガンダ、ルワンダ、ブルンジ、コンゴ、マラウィ、モザンビーク)に国境を接しており、インド洋上にはザンジバル島を領有している。

最も標高が高いのはキリマンジャロ山で5895メートルで、ヌーヤシマウマの大移動で知られるセレンゲティ国立公園や、チンパンジーで有名なタンガニーカ湖沿いのゴンベ国立公園など自然保護地域が数多く存在している。

金などの豊富な鉱物資源を有しているにも関わらず、国民の約74%は農業に従事しており、国内生産(GDP)の約25%を占めている。コーヒーは最も重要な作物の一つで、その85%以上は小規模生産者によって生産されている。その他の主要な農作物としては、

コットン、タバコ、カシューナッツ、茶、サイザルなど。ザンジバル島はスパイスで有名でクローブなどが栽培されている。

日本ではキリマンジャロ・ブランドとして有名なアラビカコーヒーは北部キリマンジャロの山麓で1900年に商業作物として紹介され、栽培が始まったが、現在ではンベヤ地区など南部地域の生産が拡大し、主要生産地帯は南部に移りつつある。



# ウガンダ Uganda



ウガンダ

栽培品種	アラビカ、ロブスタ
特徴	はじける酸味と甘みを有したフルボディ ロブスタは良質と評判が高い
生産量 (2012年)	3,000千袋
生産地域	エルゴン山(東部)、ルウェンゾリ(西部)など
販売方法	直売
加工	ウォッシュ、ナチュラル
収穫期	10 - 2月: メインクロップ、8月: フライクロップ
船積港	モンバサ、ダルエスサラーム
主な輸出先	欧州

ウガンダはケニア、タンザニア、ルワンダ、コンゴ民主共和国、スーダンに囲まれた内陸国。理想的な気候に加えて、湖、湿地、河川など豊富な水資源を有する。

チャーチルが「アフリカの黒い真珠」と評したウガンダは多種多様な環境に、チンパンジーやゴリラ、1000種類を超える鳥などが生息し、近年では環境に配慮したエコ・ツーリズムの行き先として観光客の人気を集めるようになってきている。

ウガンダは100年以上もの長いコーヒー生産の歴史を有しており、アフリカで2位、世界で9位のコーヒー生産国である(2012年)。アフリカでは有機栽培コーヒーの輸出国としてこの市場をリードしており、アラビカ種の起源がエチオピアであるのに対し、ウガンダは

ロブスタ種の起源として考えられており、かつて、ウガンダの戦士が戦闘に行く前に勇敢な気分になるためにコーヒー豆やチェリーを口に含んだとされている。ウガンダのジャングルの中ではいまだに野生のロブスタ種が生息している。

1970年以来、ウガンダにとってコーヒーは主な外貨収入源であり、その生産は50万ほどの小規模生産者によって支えられている。ロブスタは94%、アラビカは6%ほどであるが、国民の25%はコーヒーで生計を立てているとされている。





## ザンビア *Zambia*



ザンビア

栽培品種	アラビカ
特徴	マイルドな酸味を有したフルボディ
生産量 (2012年)	10千袋
生産地域	中部、その他全土
販売方法	直売
加工	ウォッシュ
収穫期	10 - 3月
船積港	ダーバン
主な輸出先	欧州

ザンビアは8カ国（アンゴラ、コンゴ民主共和国、タンザニア、マラウィ、モザンビーク、ジンバブエ、ボツワナ、ナミビア）に国境を接する内陸国。銅などの鉱物資源が豊富で、鉱業が最も重要な産業。

近隣諸国から多くの民族がザンビアに移住してきているため、現在も約35の異なる言語を話す民族が存在している。

もっとも象が多いとされる南ルアンガ国立公園など、ザンビアは「リアル・アフリカ」として冒険好きな観光客を集めている。世界7不思議の一つとされるビクトリア滝やザンベジ河でのウォータースポーツも人気。

タンザニア、ケニアからコーヒーがザンビアに伝わったのは1950年代だが、本格的に

コーヒーの商業栽培が始まったのは1980年代のこと。エチオピアやタンザニアなどの生産国と違い、ザンビアのコーヒー産業は数多くの小規模生産者ではなく、大規模な灌漑設備などを備えた農園が生産の主体である。標高は高くないが、昼夜の寒暖差が激しく、生産量は小さいが高品質なコーヒーが栽培されている。



## ジンバブエ *Zimbabwe*



ジンバブエ

栽培品種	アラビカ
特徴	穏やかな酸味、豊かな香り、ボディ、後味
生産量 (2012年)	10千袋
生産地域	東部高地
販売方法	直売
加工	ウォッシュ
収穫期	7 - 10月
船積港	ダーバン（南ア）、ベイラ（モザンビーク）
主な輸出先	欧州

ジンバブエはモザンビーク、ザンビア、ボツワナ、南アフリカに国境を囲まれる内陸国である。

この国を象徴するのはザンベジ川とリンポポ川の二つの大河である。ビクトリア滝は観光の目玉でリビングストーンが「アフリカで見つけた最も素晴らしいもの」と表現したほど。

ジンバブエは豊かな文化を持ち、芸術家は社会でも尊敬され、陶芸や織物、彫刻など世界的にも有名である。また、音楽も有名である。

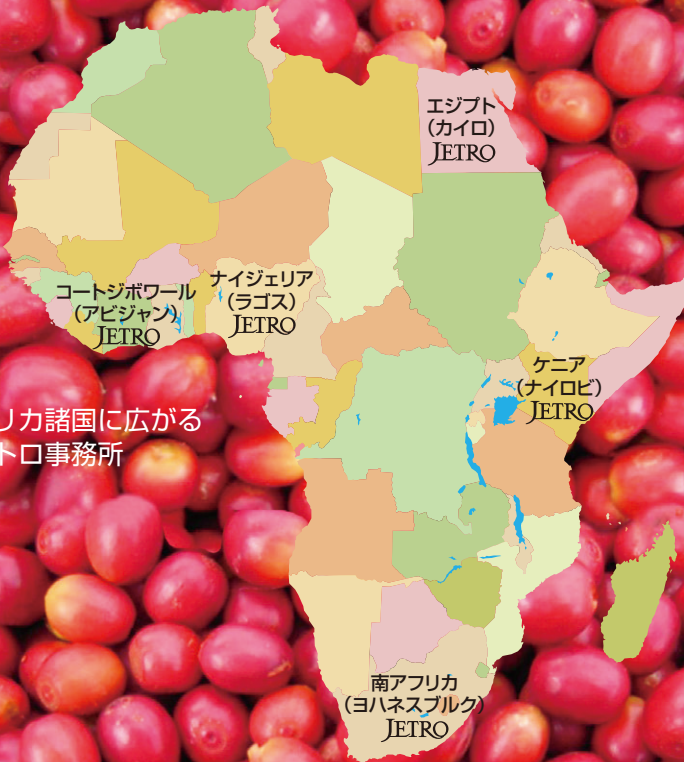
ジンバブエの公用語は英語であるが、英語が母語である人口はわずか2%程度である。その他はショナ語やンデベレ語などのバンツー系の言語を母語とする人口が多い。

鉱業と農業が外貨収入の大半を占め、観光業もこの国の重要な産業である。コーヒーは1960年代に栽培が開始され、大規模農園によって灌漑や肥料など近代的な農法のもとアフリカトップの高い生産性を誇っていたが、近年の国情悪化により生産が崩壊し、生産量が大幅に落ち込んでいる。



Discovery of the African Coffees

AFRICA



アフリカ諸国に広がる  
ジェトロ事務所

新たなアフリカ産  
コーヒーを探して



日本貿易振興機構(ジェトロ)  
途上国貿易開発部 開発支援班

〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32

TEL: 03-3582-5770 FAX: 03-3585-1630

E-mail: TEA-C@jetro.go.jp

<http://www.jetro.go.jp/indexj.html>

禁無断転載 ©JETRO

AFCA  
AFRICAN FINE  
COFFEES ASSOCIATION

JETRO